

は、いずれの例でも、その処置が実施されるのに関係なく、上述した手段を用いるべきである。

10. 薬剤を分配したり、供給する登録者が処方以外の他の薬剤の提供を避けるために採用されるべきである。その結果、薬局は提供された薬剤の合計を示す財政的

な金額だけでなく、供給された薬剤の特殊なタイプをも証明しなければならない。

Problemi potrosnje i rezima lekova se stanovista fondova zdravstvenog osiguranja, *Socijalno osiguranje*, No. 3, 1970, pp. 3-8; No. 43, '71.

老 齡 者 の 福 祉 問 題



Harry Sintonen (フィンランド)

本稿には、老齡者の社会福祉対策が論じられており、社会的に妥当な生活水準を老齡な人びとに保証する目的が示されている。

老齡者に対する社会政策分野の対策がもっている不適切さ、および急速な社会や技術の変化と比較して指摘される社会政策の硬直性

は、社会福祉を用いて埋め合わせる多数のニードを新らしくもたらしている。さらに、老齡人口はきわめて早い速度で増大している。1965—1980年の間に、その増大は約50%と見込まれている。1950年に、老齡人口は総人口のうち6.6%を占めていたが、1980年には、その数字が10.7%になるであろう。同時に、グ

ループ別の年齢構成は変り、福祉の分野における諸問題の増加を予想させる社会的サービスのニードと需要に影響を与えるであろう。

幾つかの社会学的および経済学的な傾向も、老齡者に対する福祉のプランニングに影響を与えている。老齡者のうち大部分の者が近い将来には、農村から都市地域に移ると予想されるので、かれらの地域別による分布が変るであろう。1968年には、都市地域に住んでいる老齡者は44%であったが、1950年には29%にすぎなかった。1人暮らしの老齡者は農村地域と都市地域の双方で引続き増加しており、その傾向はとくに都市地域でいちじるしい。老齡者の所得は新しい年金制度が十分に活動した場合に、上昇が期待される。同時に、所得の分布は平らになり、その結果、貧困を救済する福祉サービスのニードは減少するであろう。他方、所得水準の上昇は医療サービスの需要を増大させるが、しかし、所得の高い社会では罹患率が低いので、反対に補償的な意味となるニードの減少が考えられる。フィンランドの社会で、福祉サービスの

ニードを作り出している最も重要な要因の1つは、高齢者の適切な住宅が依然として欠けており、この状態が今後も続くであろうということである。

現在、各種のサービスに対するニードと需要は、オープンな福祉と施設の福祉の双方において行なわれる供給を上まわっている。住居の施設は負担に耐えられないし、とくに看護病棟ではそれがいちじるしく、1969年にはその負担が約13%になっていた。しかし、高齢者の約5.6%は居住施設に住み、また、高齢人口の1.5%は収容されるのを待っている。施設に収容されるこのような状況は明らかにオープンな福祉が未発達な状態におかれているのを原因としており、たとえば、それは在宅援助のニードと供給との間におけるギャップを明示している。農村地域およびその他未発達な地域における施設の集中は、フィンランドの福祉資産にかんする地理的分布のもっている特色である。これらの施設のうち大部分の施設は居住にかんするもので、特殊な施設が欠けている。これらの地域は未発達で、

オープンな福祉サービス、とくに、医療サービスが欠如している。

Vanhusten huolto-ongelmien laajuus ja

laatu Suomessa, *Sociaalinen Aikakauskirja*, No. 5, 1970, pp. 331-336; No. 50, '71.

高齢者とかれらのニード

Jerzy Piotrowski (ポーランド)



本稿には、ポーランドにおける65歳以上の高齢者の状況について要約が示され、高齢者の社会的要求にかんする特殊な研究も併せて示されている。

都市化と工業化の結果として生じた社会の社会経済的変化は、高齢者の保護に新しい問題を提起している。1931—1932年には、新生児の半数は60歳以上まで生きることができただけであったが、現在では、18歳の80%が60歳以上まで生きるびると期待されている。

医師、心理学者などの研究は1つの共通な特長をもっている。つまり、かれらは高齢や高齢があたかも1つの型にはまっているかのように、またすべての高齢者が同一タイプの問題に直面しているかのように、労働能力の喪失、健康の退化などの問題を示している。これは問題の組織的な研究を必要としてきた。発見された事実の確認は欠くことのできない基本的なものとなっている。そのような調査は高齢者に対する社会的保護の指導にとって大きな事実上の価値をもっており、調査は19